

# 周作クラブ会報

(第95号)  
2024年6月30日発行

周作クラブ

## ◆主な記事◆

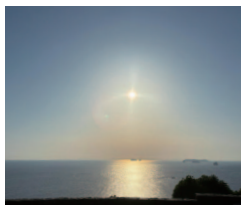
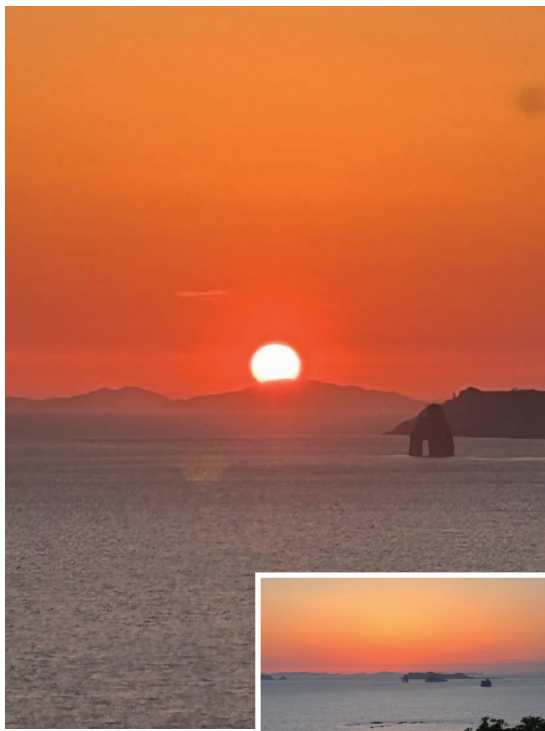
- ◆ 原点の旅 長崎 1〜2面
- ◆ 高橋千劔破氏 追悼 3面
- ◆ 原稿発掘 4面
- ◆ 連載②&会員寄稿 5面
- ◆ 周作クラブ長崎便り 6面
- ◆ 遠藤周作文学館便り 7面
- ◆ お知らせ欄 8面

報告 原点の旅

## 復活「遠藤文学 原点の旅」長崎へ 生誕100年記念展と夕陽鑑賞

第22回「原点の旅」が5月19日(日)から20日(月)に行われた。コロナ禍を経て、昨年は軽井沢高原文庫に於いて現

地集合現地解散の日帰り旅という形式で再スタートしたが、本格的に宿泊を伴う「旅」の完全復活である。目的地は長崎の遠藤周作文学館。



文学館から見る角力灘の夕陽

昼食後、貸し切りバスで黒崎、外海に向かった。各々の出発地の天候は芳しくないとこの情報もあったが、長崎地方は快晴。車窓から見えるキラキラ光る海は美しく、遠くに五島列島まで見わたすことができ

昨年3月27日、遠藤周作100歳の誕生日から開催されている「生誕100年記念展」と外海の夕陽を鑑賞する旅である。東京、中部、伊丹等各地から長崎空港に昼頃までに集合した会員21名は、空港近くの大村湾を臨むレストラン「てん新」で

今回、残念ながら急遽参加出来なくなった加藤宗哉会長代行から電話音声通話で会員への挨拶、亀岡園子さんによる「大村」や「黒崎」についての遠藤周作のエッセイの朗読を聞きながらバスに揺られること約1時間、目の前にレンガ作りの黒崎教会が見えてきた。いよいよ最初の目的地である「かくれ」の聖地といわれる「枯松神社」が近づく。枯松神社は禁教令下、かくれキリシタンたちがこのあたりに密かに集まりオラシヨを唱え伝承してきた場所、明治時代になりこの地に神社を建立して日本人指導者バスチャンの師であるサン・ジュアンが祀られた。日本全国に3社しかない「キリシタンを祀った神社」のうちの1社だそう。2001年にはここで歴史的なミサが行われた。外海のキリシタンと、カトリック教会の共同ミサで、キリシタン側からは帳方(指導者)が伝承してきたオラシヨを唱え、キリスト教会からは司祭が参加しての共同司式となり、長い間交流のなかった両者の和解の瞬間となった。かくれキリシタンが密かに集まった場所というところは、便利になった現在でもそう簡単に行ける地ではない。バスの運



枯松神社



この下に隠れて祈った



小石の十字架



杖が無ければ...

転手さんのテクニクのおかげで、できる限り近くでバスを降りることが出来た。一行だが、いきなり目にしたのはうっそうとした林と、「ご自由にお使いください」という竹の杖の束。心強いことに、遠藤周作文学館から学芸員の林田沙緒里さんと田中佑亮さんが、説明と案内のため駆けつけてくれていた。林田さんに続き、木の根のはった道なき急な坂道に足を踏み入れた。復活祭前の「悲しみの日」には闇夜に紛れ数人でオラシヨを唱えたという「祈りの岩」の横を通り小さな社に到着。この社は2002年に改築されたもので、以前は祠に鳥居といった形だった。今は一カ所にまとめて納められているが、足下の石もキリシタン達の墓であった。十字架のように小石が並べて置かれている石(墓)もあったが、当時はこうして祈ってあとはその小石をバラバラに崩して痕跡を残さない様にしてたそう。取材で訪れた40歳代の遠藤周作は、この茂みのずっと奥の方まで分け

(次頁に続く)